

経済情報ピックアップ

IMF「世界経済見通し(2026年4月)」の結果について

4月22日、国際通貨基金(IMF)は最新の世界経済見通しを公表しました。

IMFによれば、2026年の世界経済成長率は前年比+3.1%、前回1月の見通しから▲0.2ポイント下方改定しています。2月末に発生した米国・イスラエルとイランの衝突による原油輸送の要衝ホルムズ海峡の封鎖を起因とするエネルギー価格の上昇と供給混乱が主な要因となっています。インフレ率は、前年比+4.4%と、前回見通しから+0.6ポイント上方改定しています。

今回の予測では、IMFが用意した3つのシナリオ(早期収束・紛争長期化・被害拡大)のうち紛争が数週間で早期収束したシナリオを採用しています。一方、混乱が長引き原油高が続く深刻シナリオでは、インフレ率が+5.8%まで上昇し、各国・地域の中央銀行が金融引き締め動くことで成長率は+2.0%まで鈍化するとしています。

なお、上記3つのシナリオ以外のイラン衝突なしシナリオでは、成長率は+3.4%と、前回見通しを+0.1ポイント上回る見込みとなっていました。

2026年の成長率見通しを国・地域別でみると、先進国・地域は前年比+1.8%と、前回見通しから横ばいとなっています。米国は同+2.3%と、エネルギー輸出国であることから、紛争のマイナスの影響を輸出で補うため、前回見通しから▲0.1ポイントの下方改定に止まっています。

新興、途上国・地域は同+3.9%と、前回見通しから▲0.3ポイント下方改定されています。輸入国がイラン衝突の影響を非常に受けやすく、とくに低所得の発展途上国が大きな打撃を受ける可能性が高い状況にあります。

また、中東・北アフリカの2026年の成長率は、前年比+1.1%と、前回見通しから▲2.8ポイント大幅下方改定されています。とくに、ペルシア湾岸地域のエネルギー輸出国では、攻撃によるインフラの損傷や生産の混乱、ホルムズ海峡封鎖による輸出の制約、観光とビジネス活動の停滞などから経済に影響が生じる見通しとなっています。紛争当事国であるイランは▲6.1%と、大幅なマイナス成長を見込んでいます。

一方、ロシアやブラジルなどの産油国は中東からの代替需要先として輸出が増加することから成長率を上方修正しています。

こうした中、日本は同+0.7%と、前回見通しから横ばいとなっています。日本の原油調達の約9割は中東であり、米国向けや中東他地域からの代替調達、国家・民間備蓄放出などで不足分を補充するとしていますが、ホルムズ海峡封鎖の影響を受けます。

また、石油化学製品の原料にあたるナフサの供給についても中東の依存度が高く、調達が停滞すれば、石油化学プラントの減産によって、石油化学製品を使用する自動車、医療資材、建設資材など幅広い産業の活動に影響を及ぼす恐れがあります。

先行きについては、米国・イランの停戦協議の動向が執筆時点(2026年5月11日時点)では不透明であり、再び軍事衝突するリスクも残っています。事態が当初想定よりも長期化・深刻化し、今回採用したシナリオよりも悪いシナリオに近づいていけば、世界経済はさらに減速することになります。

(筑波総研 上席研究員 山田 浩司)

世界経済見通し(実質GDP、2026年4月時点)

国・地域	2025年			2026年			2027年		
	2025年	2026年	2027年	2025年	2026年	2027年	2025年	2026年	2027年
世界	3.4	3.1 (▲0.2)	3.2 (±0.0)						
先進国・地域	1.9	1.8 (±0.0)	1.7 (±0.0)						
米国	2.1	2.3 (▲0.1)	2.1 (+0.1)						
ユーロ圏	1.4	1.1 (▲0.2)	1.2 (▲0.2)						
ドイツ	0.2	0.8 (▲0.3)	1.2 (▲0.3)						
フランス	0.9	0.9 (▲0.1)	0.9 (▲0.3)						
イタリア	0.5	0.5 (▲0.2)	0.5 (▲0.2)						
スペイン	2.8	2.1 (▲0.2)	1.8 (▲0.1)						
英国	1.3	0.8 (▲0.5)	1.3 (▲0.2)						
日本	1.2	0.7 (±0.0)	0.6 (±0.0)						
カナダ	1.7	1.5 (▲0.1)	1.9 (±0.0)						
新興、途上国・地域	4.4	3.9 (▲0.3)	4.2 (+0.1)						
ロシア	1.0	1.1 (+0.3)	1.1 (+0.1)						
中国	5.0	4.4 (▲0.1)	4.0 (±0.0)						
インド	7.6	6.5 (+0.1)	6.5 (+0.1)						
ASEAN5	4.5	4.1 (▲0.1)	4.4 (±0.0)						
ブラジル	2.3	1.9 (+0.3)	2.0 (▲0.3)						
メキシコ	0.6	1.6 (+0.1)	2.2 (+0.1)						
中東・北アフリカ	3.2	1.1 (▲2.8)	4.8 (+0.8)						
サウジアラビア	4.5	3.1 (▲1.4)	4.5 (+0.9)						
南アフリカ	1.1	1.0 (▲0.4)	1.3 (▲0.2)						

注1: ()内は2026年1月見通しからの変化。
 注2: ASEAN5は、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナム、タイ。
 出所: IMF「World Economic Outlook」(2026年4月)